

ワークシートを選ぼう

付箋紙を用いたワークショップ型研究協議におけるワークシートの例を示します。協議の目的に応じて、どのシートを使用するのかを選びます。簡単な説明を付しておきますので、参考にしてください。

1 時系列シート

時系列シート

	導入	展開	まとめ
+	 興味を引く導入	 発問の工夫	 効果的な評価
-	 支援が必要		

授業の流れに注目して協議を進める場合に、効果的です。成果や課題が明確になります。授業の流れに沿っているので、初めての時でも付箋の記入がしやすい形です。

図5-1 時系列シートの例

2 マトリクス法

マトリクス法

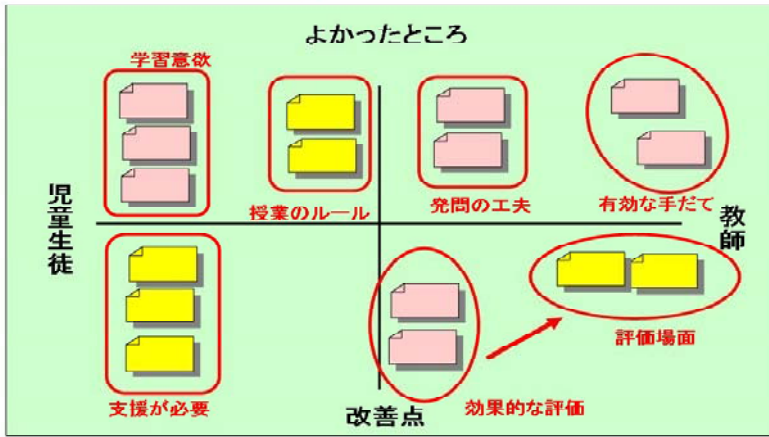
	子どもの姿	教師の支援	その他
成果			
課題			
改善策			

あらかじめ協議の視点を定めておき、その視点に集中して成果と課題を明らかにして、改善策を協議したい場合に適しています。ワークシートが枠組みされているので、経験が少なくても取り組みやすい方法です。

図5-2 マトリクス法のシートの例

3 概念化シートマトリクス法

概念化シート

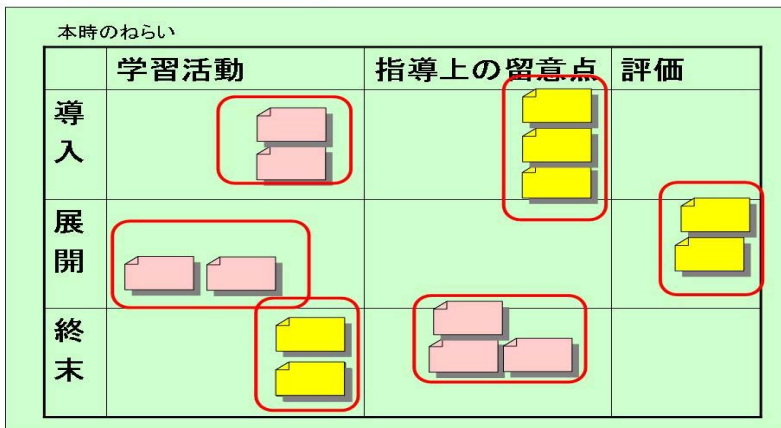


あらかじめ協議の視点を定めておき、その視点に集中して成果と課題を協議したい場合に適しています。経験を積んで、協議を深めたいときに採用したい形です。

図5-3 概念化シートの例

4 指導案拡大法

指導案拡大法

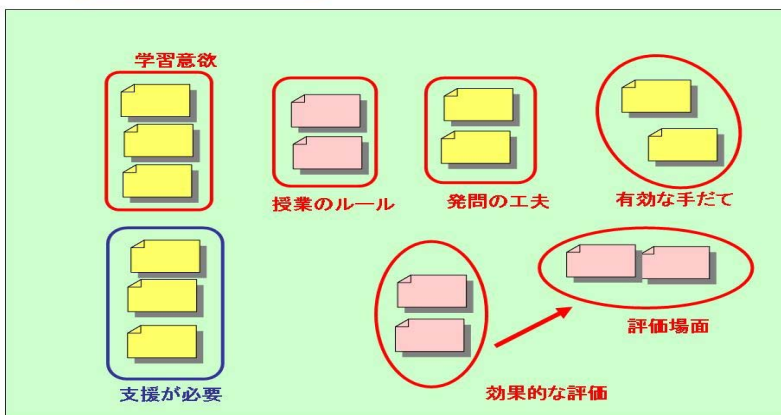


あらかじめ拡大コピーしておいた本時案に、直接、付箋紙を貼る手法です。指導案と実際の授業を対比しながら進めるような研修に向いています。

図5-4 指導案拡大法の例

5 フリーシート

フリーシート



最も自由度の高い手法となります。付箋のグルーピングや構造化が進めやすいシートです。経験を積んでから挑戦したい形です。

図5-5 フリーシートの例